

2007 こうかぼうかのつどい



女性消防隊による旗を使ったステージ

2007こうかぼうかのつどいが12月5日(水)、あいこうか市民ホールで開催されました。

このつどいは、子どもたちが楽しく集うなかで「火の用心」を正しく身につける機会として3年に一度開催されています。

この日は、甲賀・湖南両市内の幼稚園・保育園の年長児で組織する幼年消防クラブ員約450名が集まりました。

アトラクションでは、甲賀広域行政組合消防本部消防音楽隊が演奏するアニメの曲に合わせて、子どもたちが元気に歌い会場を盛り上げました。

また、市消防団女性消防隊は旗を使った演技で音楽隊とステージを共にし、つどいを華やかに飾りました。

くす玉を割り防火を誓う幼年消防クラブの子どもたち



甲賀市史第1巻で探る

「甲賀に仏像が多いのはなぜ？」



昨年12月刊行の『甲賀市史』第1巻。もう手にとってご覧いただきましたか。多くの話題があります。古い立派な仏像が多いことを改めて感じられた方もあるでしょう。都に近く比叡山を仰ぐ近江です。ただでは大津市につぐ数の古仏が甲賀に伝わることを説明できません。

第1巻ではそれを平安時代に起こった天台宗が、早くから伸びていた奈良仏教の影響を圧倒しつつ、野洲川から交通の要路であった柚川にそって教線を拡大したこと、その活動は仏像の造像と密接に係っていたこと、それが樺野寺（甲賀町樺野）などの「拠点寺院」を中心になされたことなどが明らかにされます。

柚谷一帯では最澄が延暦寺造営のとき良材を求めてこの谷に分け入り、また多くの寺院を開いたとされます。甲賀が天台宗にとり宗教的・経済的にとても重要な場所であったことをもの語りますが、「樺野」といい、やはり拠点寺院とされ、近くから飛鳥時代の巨木が出土した正福寺（甲南町杉谷）のある「杉谷」といい、樹木の名を冠した地名に関係

することは興味深いことです。「柚」といえばまず建築用材ですが、仏像や神像を造るための木も豊富であり、それを基盤に豊かな宗教文化を発信することができたのです。

—いまひもとく—

原始・古代の甲賀—

『甲賀市史』第1巻

ただいま販売中です

1冊 3,500円

◎販売場所

水口歴史民俗資料館・土山歴史民俗資料館・かふか生涯学習館・甲南庁舎市史編さん室・信楽中央公民館

詳しくは市ホームページをご覧ください。



▲新治発見のスキの埋もれ木

問い合わせ

歴史文化財課 市史編さん室（甲南庁舎3階）

TEL 86-8075 FAX 86-8216